

〔一般論文〕

ジェネリック医薬品の普及に及ぼす各種環境因子の影響に関する研究

Study on the Influence of Various Environmental Factors on the Promotion of Generic Drugs

赤瀬 朋秀^a, 一瀬 彩^b, 渡邊 一則^b, 稲葉 健二郎^c, 湯本 哲郎^dTOMOHIDE AKASE^a, AYA ICHINOSE^b, KAZUNORI WATANABE^b, KENJIRO INABA^c, TETSURO YUMOTO^d^a 日本経済大学大学院経営学研究科^b 星薬科大学実務教育研究部門^c 総合相模更生病院薬剤部^d 星薬科大学薬剤師職能開発研究部門〔 Received October 11, 2016
Accepted May 9, 2017 〕

Summary : We examined the factors determining the differences among prefectures with regard to the promotion of generic drugs. Consequently, it was found that the differences are affected by healthcare-related factors such as the number of clinics, dental clinics, and pharmacies, as well as factors related to standards of living such as college-going rate, healthcare expenditure per capita, and average monthly pension.

Key words : promotion of generic drugs, differences among prefectures, environmental factors

要旨: ジェネリック医薬品普及の都道府県格差の要因を検討した。その結果、診療所数、歯科診療所数、薬局数といった医療関連の因子のほかに、大学進学率、1人あたりの医療費、平均年金月額など、生活水準に関連する因子が影響していることが明らかとなった。

キーワード: ジェネリック医薬品普及、都道府県格差、環境因子

1. 緒言

近年、我が国の国民医療費は、高齢化の伸展および医療技術に関するイノベーションの影響により、増加の一途をたどっている¹⁾。特に、次々と上市される高額医薬品の影響を示唆する指摘が多方面から報告されており、国民医療費の伸びに対する薬剤費の影響は甚大であるとされている。このような状況下、限りある医療資源をどのように配分、節減していくかが社会および政治的な大きな課題の一つとなっている。その中でも、医療の質を維持したまま、

医療費を削減する方法の一つとしてジェネリック医薬品 (Generic Drug, 以下 GE) の使用が推進されている。特に、GE の製剤学的な工夫やオレンジブックなど品質に対する取り組みのほかに、診断群分類別包括評価 (Diagnosis Procedure Combination, 以下 DPC) 制度や処方箋様式の変更といった制度的なインセンティブ、GE 推進ポスターや GE 希望カードによる啓発活動など、産官民が一体となった努力によって GE の普及率は年々増加傾向にある²⁾。しかし、平成 26 年度の GE の全国普及率は、新指標^{脚注)}による数量ベースで 58.4%²⁾ と伸び悩んでおり、目標への到達には至っていないのが現状である。さら

* 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 25-17
TEL : 03-3463-4159 FAX : 03-3463-5211
E-Mail : t-akase@tk.jue.ac.jp

脚注) 新指標 = 後発医薬品 / (後発医薬品のある先発医薬品 + 後発医薬品)